

こどもをサポートするネットワークの強化

子どもの生活に関する実態調査から見えてきた課題

1. 世帯の経済状況は、子どもの生活や学習環境、学習理解度にも影響を与えている。
 2. 若年で親になっている世帯やひとり親(特に母親)は、経済的に厳しい状況にある。
 3. 困窮度の高い世帯に比例して多くなる主な状況は、次のとおり。
 子どもを学習塾に通わせることができなかった。
 子どもの進路を変更した。
 学習理解において、「よくわかる」と回答する子どもの率が下がる。
 4. 若年出産の母親(10代)の最終学歴は、中学校卒業または高校中途退学が半数を超えている。
 5. ひとり親世帯は非正規労働が多く、母子世帯は困窮度 の半数に達している。
- 支援の必要な子どもや世帯には、複合的な課題が存在することが多く、総合的な支援が必要である。

支援の必要な子ども(世帯)を発見し、適切な支援につなぐ仕組みが必要

テーマ 子どもたちが多くの時間を過ごす学校において、支援の必要な子ども(世帯)を発見できないか。

発見するための場の設定 チーム学校において、スクリーニング会議を開催

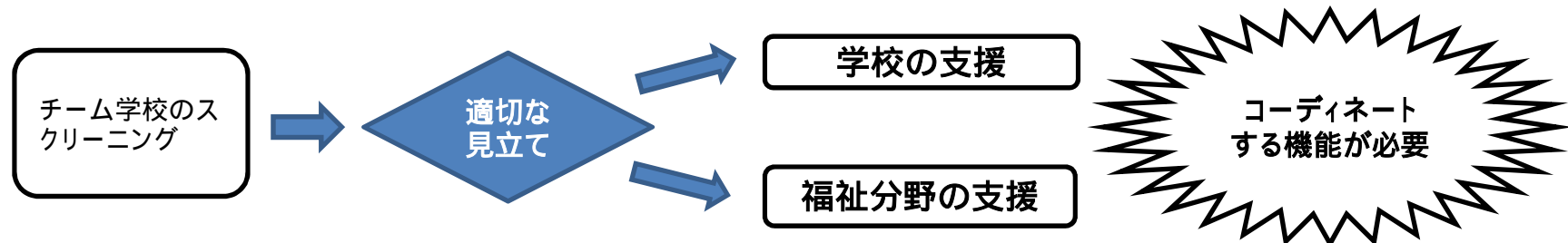
必要な支援につなぐアセスメント 教育分野・福祉分野の支援の見立て

学校で発見される課題は、児童・生徒の個別指導だけで解決できるものではなく、保護者を含む世帯全体を支援 する必要がある場合も多い。

テーマ 教育分野と福祉分野が連携し、貧困の連鎖を断ち切るための総合的支援ができないか。

学校で行う支援(チーム学校が支援)

区役所(保健福祉センター)などの関係機関における福祉分野の支援



こどもと家庭の総合支援の仕組みの考え方

こどもの生活実態調査の分析により見えた基本的課題

- ・困窮度の高い子育て世帯には、複合的な課題がある。
- ・諸施策はあるが、十分に届かず適切な支援ができていない。



教育分野と福祉分野が連携した総合的な支援が必要

